

## 目 標

厚真町の胆振東部地震森林再生への長期的な支援及び新しい林業の取り組みの発信

## 取組内容

### 【胆振東部地震森林再生実施計画に基づく町有林等の被害地復旧及び路網整備に対する支援】 (高密度カラマツ天然更新地の現地見学)

被災後約6年が経過し、崩壊地に高密度に発生したカラマツ実生苗高密度天然更新地の保育方法の実証試験に取り組んでいる厚真町の一助となるべく、苫小牧地区国有林で、風倒被害跡地に更新した樹高・生育密度の異なる高密度カラマツ天然更新地を厚真町及び森林組合関係者に現地見学してもらった。



### 【林内作業の効率化・省力化の取組の発信】 (林業ICTを活用した事業地現地見学会)

携帯電波の届かない林内でも、安定的なデジタル簡易無線トランシーバーのデータ通信を利用し、新たにインフラ整備を要さず、半径3kmにわたり、作業員各自の端末で作業員や作業機械の位置情報や林内境界表示・かかり木位置等の情報が共有できるといった、林内作業を支援するツール(sokoco FOREST ver2.0)の実演見学会を胆振地域林政連絡会議の活動の一環として実施した。

行政機関の林務担当者や林業事業者等関係者が参加し、作業効率向上と安全作業を支援するツールのメリットについて説明した。



## 結果

厚真町関係者から、「カラマツ天然更新地の今後の推移について具体的なイメージをもてるようになり、天然更新木の優劣が明らかになってからの除伐といったアイデアを持つ事ができた」等の感想が出され、今後の保育方法の検討に資するものとなった。

また、参加できなかった関係者を招いて再度現地見学を実施して欲しいとの要望を受けた。

携帯電波の届かない林内でも活用できるコミュニケーションツールの存在を認知してもらい、そのメリットについても理解してもらった。

当日参加できなかった厚真町林務担当者へは、後日内容を共有し、ICTを活用した管理の可能性（出材量や作業機械の効率的な管理）についても関心が寄せられた。

## 今年度の総括 次年度の予定

上記のとおり、今年度も、厚真町民有林が抱える復旧上の課題等を共有し、同町のニーズを踏まえ、国有林のフィールドの見学やカラマツ天然更新に関する文献の提供など、国有林の知見やフィールドを利用した支援を行うことができた。

令和7年度については、新しい林業(造林作業の効率化・省力化)の取組を民有林関係者に発信するとともに、引き続き厚真町のニーズを聞き取りながら、同町の森林再生復旧の長期的な取り組みのサポートを継続していく。